

経営比較分析表（令和3年度決算）

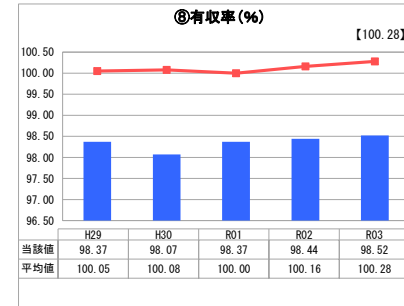
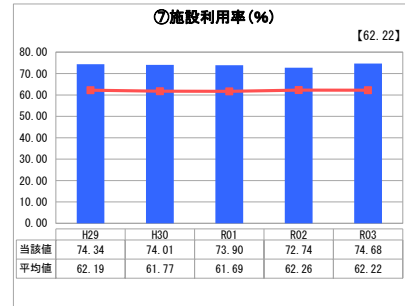
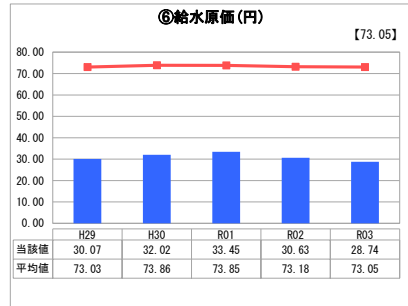
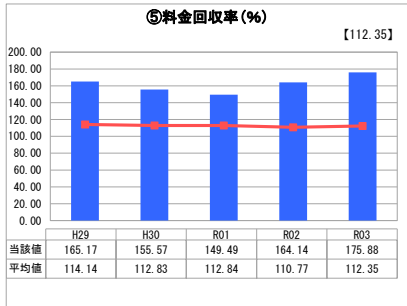
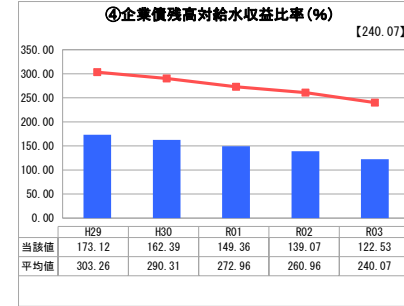
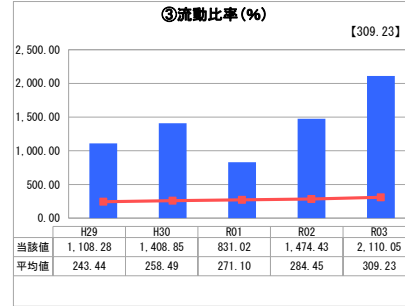
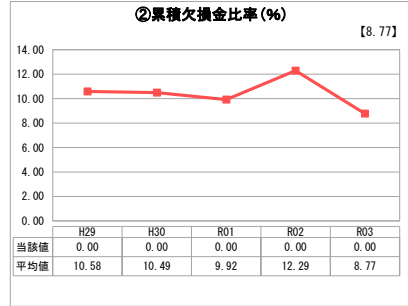
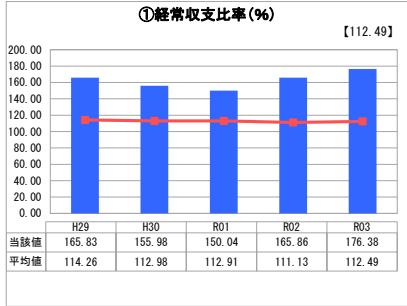
長野県 浅瀬水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	その他
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	84.35	85.82	0	

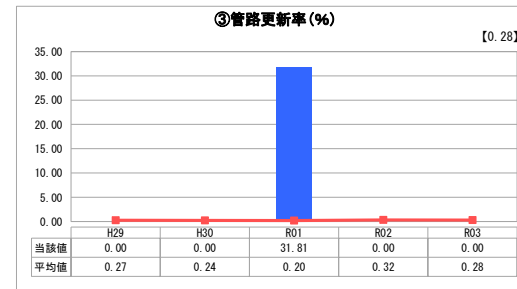
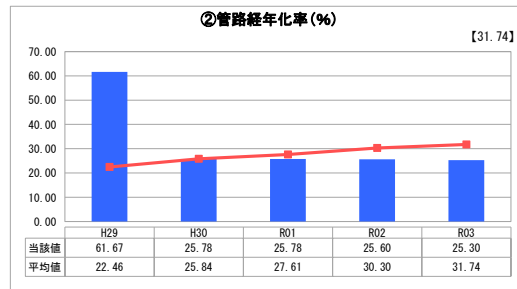
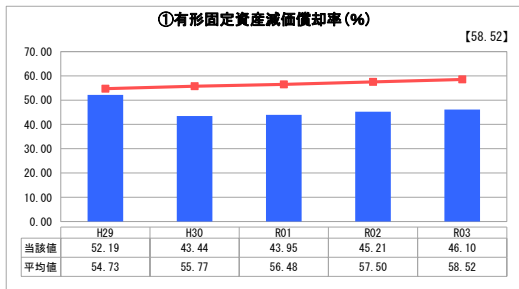
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
189,453	331.71	571.14

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率・② 累積欠損比率：経常収支比率は継続して100%を超えており、累積欠損金もないことから経営の健全性は確保されている。
 ③ 流動比率：継続して100%大きく上回っており、短期的な債務の支払い能力は確保されている。
 ④ 企業債残高対給水収益比率：平成19年度以降企業債の借入は行わず、自己資金での施設整備に努めているため、企業債残高は減少している。
 ⑤ 料金回収率・⑥ 給水原価：給水原価は類似団体の半分程度で平均値を大きく下回っており、料金回収率は継続して100%を上回っているため、適正な水準であると言える。
 ⑦ 施設利用率・⑧ 有収率：施設利用率、有収率は平均値と同水準であり、効率的に施設の運用がされていると言える。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率・② 管路経年化率：有形固定資産減価償却率は平均値とほぼ同程度であるが、管路経年化率は平均値より大きく上回っていたが、4年間の布設替えが終わり平均値とほぼ等しくなった。
 ③ 管路更新率：令和3年度は、資金を積み立てる期間であり、管路更新を行っていない。

全体総括

現状において、企業団の財政状況は良好であり、経営の健全性及び効率性は確保されている。しかしながら、構成団体からの申込水量の減少に伴い料金収入は減少傾向にあり、今後も厳しい経営環境下での事業運営が想定される。
 今後も老朽施設の更新や施設耐震化等、対応が必要な事業を確実に推進していくためには、施設の効率的な運用や組織の効率化により経営の合理化を図り、できる限り企業債の借入を抑制したうえで財源を確保することが必要である。長期的な視点での財政収支計画を策定し、経営基盤の強化を更に進めていくことが重要であると考えている。